

小学校英語教育の授業デザイン

—新学習指導要領における外国活動及び外国語科で重視すべきこと—

Things to emphasize in foreign activities and
foreign language courses in the New Course of Study.

清水 和久 (人間科学部こども学科・教授)

Kazuhisa SHIMIZU (Faculty of Human Sciences, Department of Child Study, Professor)

〈要旨〉

平成31年度から小学校5, 6年生において, 教科としての外国語科が週2時間始まる。すべての教科において「主体的」で「対話的」で「深い学び」になるような授業設計が求められるので, 小学校の外国語科(英語)においても児童の問題意識を高め, 課題性を重視した授業をデザインすることで, 表現力だけではなく, 興味関心や内容面での満足度を上げることができると考える。そのためによって本研究では以下の3点について言及する。

1. 英語教育においては, 先行的に実施されてきた金沢市の英語教育の副読本は, 次期学習指導要領対応のテキストとかなりの部分でオーバーラップする部分が多いことがわかった。2. 外国語科においても「主体的で対話的で深い学び」が求められるが, 目的意識, 相手意識を高めることが主体性を高め, 対話的に学ぶことになり, ひいては深い学びにつながるということがわかった。3. 大学における小学校英語教育の指導法においても相手意識, 目的意識を高める経験が必要である。

〈キーワード〉

小学校英語, 授業デザイン, 深い学び 国際交流 金沢の英語教育

1 はじめに

小学校外国語教育の導入に至る経緯としては, アジアの国々が小学校から英語教育を進める中で, 日本が出遅れていた実情がある。韓国では1997年から, 中国では2001年から, 台湾では2005年からいずれも3年生から英語が必修化された。日本ではようやく2011年から5, 6年生に外国語活動という形で導入された。そして, 平成2017年3月に告示され, 2020年度から小学校で全面実施される新学習指導要領において, これまで高学年でおこなわれていた外国語活動が中学年に降り, 高学年は教科として外国語科という形で実施される。

筆者が小学校教員であった2000年頃から, 台湾や韓国の小学校と国際交流を行ってきたが, 小学生が自己紹介カードを交換する時に, 韓国の5, 6年生からの英語の自己紹介の内容は, 日本の中学2年生程度の内容であり, その英語力の違いをまざまざと感じたことを憶えている。

2020年実施の新学習指導要領からは, 教科としての「外国語科」になり, 他の教科と共通に「主体的で, 対話的で

深い学び」が求められることになる。

本論文では, 2020年度実施の新学習指導要領における外国語活動, および外国語科実施にいたる経緯を述べるとともに, 先行的に実施されている金沢の英語教育実施の経緯についても述べる。また両者のテキストの内容を比較したうえで, これからの外国語活動・外国語科で大事にしたいこと及び, 小学校教員養成の外国語活動・外国語科の授業で重視すべきことを提言したい。

2 研究の目的

新学習指導要領に対応した外国語活動・外国語科の内容について, これまで先行的に行われてきた金沢市の英語教育と比較してその特徴を明らかにするとともに, 大学の教職科目で必要と考えられる小学校英語科基礎や小学校英語科教育法の内容について提言する。

3 研究の方法

1) 文部科学省の外国語活動及び外国語科と金沢の英語教

育のこれまでの経緯を比較する。

- 2) 両者で使われるテキストを比較分析する
- 3) 新学習指導要領における外国語活動及び外国語科の特徴をまとめる。
- 4) 国際交流を絡めた英語教育の可能性について言及する。

4 研究の結果

4-1 新学習指導要領における外国語活動、外国語科と金沢の英語教育のこれまでの経緯の比較

小学校英語の導入までの4つのステージ⁽¹⁾に金沢の英語教育の経緯を重ね合わせてみた。

表1 小学校外国語教育導入の経過

	4つのステージ	期間
1	研究開発校での英語教育「英語活動」 ・英語研究開発校の指定 *金沢市 ・研究指定校 金沢市立南小野小学校 ・英語活動開始	1992-2001 2000-
2	「総合的」の中での「英語教育」開始 *金沢市 ・大徳中学校区英語モデル地区 ・小中一貫英語教育特区 ・「教育課程特例区」(小中)	2002-2010 2001- 2004- 2009-
3	英語科教育必修化「外国語活動」 *金沢市 ・教育課程特例区(小) ・金沢型学校教育モデル	2011-2019 2012- 2016-
4	英語科教育教科化 「外国語活動・外国語」	2020-

第1ステージでは、1992年から文部省による英語の研究開発校の指定が始まり、大阪市の真田山小、味原小の2校が指定され、1996年には都道府県に1校ずつ指定されるようになった。⁽²⁾

2000年には「英会話などの研究開発校」として全国で3校が指定され、その中の1つが石川県の金沢市立南小立野小学校であった。この学校の特徴としては、学級担任がEAA(English Activity Assistant)とTT(Team teaching)で行うことであった。TTは発音する口形の見本を提示でき、英語表現の細かいニュアンスも判断できるなど、他の市が教師単独の授業で不安を抱える中、大変有効であった。⁽³⁾

第2ステージでは、総合的な学習の時間の一環として英語が実施された。金沢市の場合、2001年から2003年に金沢市立大徳中学校区が英語のモデル地区となり、同中学校に通うことになる木曳野小、および大徳小と共同して英語教育のカリキュラム開発を行った。2004年からは「小中

一貫英語教育特区」の指定を受け2006年からは市内小中一斉実施となっている。ここでは、3年生以上に年35時間の英語科が新設され、5年生までは独自制作の英語副読本 Sounds Good1, 2, 6年生は中学校1年生の英語の教科書(New Horizon)を使用していた。筆者はこの時Sounds Goodのデジタル版の作成にかかわっている。

このように金沢市は英語特区として進んだ取り組みをしていたのであるが、全国的には総合的な学習の時間の中で外国語活動として取り組む例が多かった。筆者は、当時金沢市の小学校教員であり、2002年には総合的な学習の時間の中で、WEB上にあるNHKの英語の番組「エイゴリアン」のコンテンツを利用して、海外の国際交流校とTV会議などで英語の会話練習をおこなっていた。しかし、一般的な小学校については総合の内容は各学校に任されていたので、中学校入学前の英語の知識が各小学校で異なることになり、英語のスタート時に困るという問題が出ていた。

第3ステージでは、上記の問題もあり、全国的には5, 6年生で週1時間の外国語活動が必修化となった。ただし数値による評価はなじまないと考えられ「教科」ではなく「領域」として位置づけられた。

金沢市の場合、2012年から教育課程特例校(小学校のみ)の指定を受け、小学校6年生での中学校英語の教科書を前倒して使うことをやめ、独自の副読本として、Sounds Goodの3冊目「Jump」制作した。また、以前のSounds Good1, 2も内容を改訂し「Hop」「Step」と改名した。特に「Jump」は、日常的なコミュニケーション場面の設定と学校紹介や金沢の紹介など児童の興味関心に即した題材をトピックスとしており、世界との交流を意識したものとなっていた。この副読本の内容は後で述べる文部科学省のテキスト“We Can!”と共通点がある。

第4ステージとして、「英語の在り方に関する有識者会議」の提言を受け、最終的に中学年は週1時間で「聞くこと」「話すこと(やりとり・発表)」を中心とした「外国語活動」、高学年はそれに「読むこと」「書くこと」を加えて週2時間の「外国語」として授業が展開されることになった。

なお、2018年、2019年は移行期であり、小学校5, 6年生で50時間、3, 4年生では15時間の時数確保がなされる。またこの移行期の教材としては、これまで文部科学省が5, 6年生向きに作成していた外国語活動の「Hi, Friends」のかわりとして「Let's try」が3, 4年で、5, 6年生では読み書きの指導もできる「We Can!»が提供される。金沢市の場合、「We Can!»に取り入れられている過去形が、副読本の学習内容に追加される予定である。

4-2 文部科学省のテキストと金沢市の副読本の比較

移行措置及び先行実施にむけての教材 "Let's try" (3, 4年生用, "We Can" (5, 6年生用) が文部科学省から公開された⁽⁴⁾ (2017年12月8日公開) (表1, 2) 各学年とも9unitから構成されている。また, 金沢市の副読本はSounds Goodの「Hop」と「Step」では2冊を3年間で学習することになっており, 前にも述べたが「Jump」の部分が追加で作成され6年生で学習される。

表1 文部科学省 Let's try1,2 (3, 4年)

Let's try 1 (3年)

単元名 (使える表現)	内容	項目
unit 1 Hello!	あいさつ	○
unit 2 How are you?	ごきげんいかが?	○
unit 3 How many?	数えて遊ぶ	
unit 4 I like Blue	好きなものを伝えよう?	○
unit 5 What do you like?	何が好き?	○
unit 6 ALPHABET	アルファベットと仲良し	
unit 7 This is for you.	カードをおくろう	◎
unit 8 What's this?	これなあに	○
unit 9 Who are you?	きみはだれ?	○

Let's try 2 (4年)

単元名 (使える表現)	内容	項目
unit 1 Hello. World !	世界のいろいろな言葉で挨拶	○
unit 2 Let's play cards.	好きな遊びを伝えよう	○
unit 3 I like Mondays	好きな曜日は何かな?	○
unit 4 What time is it?	今何時?	○
unit 5 Do you have a pen?	おすすめの文具セットを作ろう	
unit 6 Alphabet	アルファベットで文字遊び	
unit 7 What do you want?	ほしいものは何かな	○
unit 8 This is my favorite place	お気に入りの場所を紹介	○
unit 9 This is my day.	ぼく・わたしの1日	○

表2 文部科学省 We Can! 1,2 (5, 6年)

We Can! 1 (5年)

単元名 (使える表現)	内容	項目
unit 1 Hello,everyone	アルファベット・自己紹介	○
unit 2 When is your birthday?	行事・誕生日	○
unit 3 What do you have on Monday?	学校生活・教科・職業	○
unit 4 What time do you get up?	1日の生活	○
unit 5 She can run fast. He can jump high.	できること	○
unit 6 I want to go to Italy.	行ってみたい国や知識	○
unit 7 Where is the treasure?	位置と場所	○
unit 8 What would you like?	料理・値段	○
unit 9 Who is your hero?	あこがれの人	○

We Can! 2 (6年)

単元名 (使える表現)	内容	項目
unit 1 This is Me!	自己紹介	○
unit 2 Welcome to Japan.	日本の文化 (日本の行事)	◎
unit 3 He is famous. She is great.	人物紹介	◎
unit 4 I like my town.	自分たちの町・地域	◎
unit 5 My summer Vacation.	夏休みの思い出 (過去形)	◎
unit 6 What do you want to watch!	オリンピック・パラリンピック	◎
unit 7 My Best Memory.	小学校生活・思い出 (学校行事)	◎
unit 8 What do you want to be?	将来の夢・職業	◎
unit 9 Junior High School Life.	中学校生活・部活動	◎

表3 Sounds Good Hop Step (3, 4年生)

金沢市小学校英語副読本 Sounds Good Hop (3年)

単元名 (使える表現)	内容	項目
unit 1 Hello,I'm Emma	自己紹介	◎
unit 2 From A to Z	アルファベット	
unit 3 I like lions	好きなもの	◎
unit 4 Do you like pizza	疑問文	◎
unit 5 I don't like bananas	きらいなもの	◎
unit 6 Do you have a pencil?	持つ	○
unit 7 What's this in English	英語で何というのか	○
unit 8 How 'the weather?	天気	○
unit 9 What time is it?	時間	○
unit 10 How many dogs	数を訪ねる疑問	○
unit 11 Can you fly?	できる	○
unit 12 What can you see?	What 何	○
unit 13 I like spring.	季節	◎

金沢市小学校英語副読本 Sounds Good Hop 後半 (4年)

単元名 (使える表現)	内容	項目
unit 14 Twelve Months	月	○
unit 15 Do you have glue?	持つの疑問文	○
unit 16 Who 's he?	誰? Who	◎
unit 17 What's 49+51?	数 +-	○
unit 18 Where do you live?	where 場所の疑問	◎
unit 19 Do you play soccer?	疑問文 スポーツ	○
unit 20 Ant on the alligator	小文字大文字	

金沢市小学校英語副読本 Sounds Good Step 前半 (4年)

単元名 (使える表現)	内容	項目
unit 1 A friend from Canada	自己紹介	◎
unit 2 I'm going to be late !	時刻	○
unit 3 What subject do you like?	教科	◎
unit 4 Where's Takasahi?	場所	○
unit 5 What's she doing?	何をしているのか	○

表4 Sounds Good Jump (5, 6年)

金沢市小学校英語副読本 Sounds Good Step (5年)

単元名 (使える表現)	内容	項目
unit 6 My birthday is June 15th.	月、日	○
unit 7 At the airport	荷物、文具等	○
unit 8 A thank-you letter	手紙、文字	◎
unit 9 My hobby is playing the piano.	趣味	○
unit 10 When do you have English?	時間割	◎
unit 11 What time do you get up?	時間	○
unit 12 At Mari's house	飲み物、食べ物	○
unit 13 She's a doctor	職業	◎
unit 14 Where's the clock	場所	○
unit 15 I can count to 1000	1000までの数字	○
unit 16 Go straight.	道案内 方向	○
unit 17 Let's write a card!	カードで文字を書く	○

金沢市小学校英語副読本 Sounds Good Jump (6年)

単元名 (使える表現)	内容	項目
unit 1 Welcome to Kanazawa	はじめまして、得意、先生紹介	◎
unit 2 Our school	学校紹介、好きな場所、時間割	◎
unit 3 A Special Guest	おもてなし、金沢伝統文化	◎
unit 4 Our town	金沢名所、偉人、数字クイズ	◎
unit 5 Our sister cities	姉妹都市、留学生自己紹介	◎
unit 6 A Farewell Party	金沢について話そう	◎
unit 7 Writing A Letter	留学生からの手紙、文字	◎
unit 8 Our World	世界の国々	○

以下6年生の学習内容について両者を比較する。

“Sounds Good Jump”の内容は2012年に制作されたものであるが、“We Can!2”と比較すると内容的にもよく似通っていることがわかる。以下文部科学省の“We Can! 2”テキストを(文)、金沢市の副読本を(金)と表す。(文)Unit1は自己紹介の内容であるが、(金)unit1も「はじめまして」と題して紹介の内容である。また、(文)Unit2の日本の文化紹介は(金)unit3の金沢の伝統文化紹介。(文)Unit3の人物紹介は(金)unit4の偉人クイズ。(文)Unit4の自分たちの町・地域紹介は、(金)unit4の金沢名所や、(金)unit6の「金沢について話そう」と同等である。

総じて6年生のトピックスは、外部に対して自分たちのことや地域に関する情報を表現する場面設定となっている。(文)Unit5の「夏休みの思い出」などは過去形を扱うための単元であるが、現在の金沢市のものにはないので移行期に向けて過去形を扱える単元を導入しているとのことである。

以上のように日本の文化や町紹介のところをローカルにした内容がそのまま金沢市の副読本に当てはまっている。文部科学省のテキストよりも7年も前に作成されていることを考えるとかなりの先見性であるといえる。

Jumpの副読本の内容は、海外の留学生が金沢にやってくる設定で、その留学生に金沢のことを紹介するものとなっている。実際に外国と国際交流を行っている学校では、海外の交流校に伝えるという場面設定をすることで、実践的に英語を使える場面設定が可能となる。

なお、表1から4の項目は、国際交流を行う上で伝える手段として使える表現を○は、伝える内容にかかわるものは◎として筆者が付け加えた。具体例は後述する

4-3 新学習指導要領における外国語活動、外国語科の特徴

2020年実施の新学習指導要領では、各教科共通に「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱が建てられている。最後の「学びに向かう力、人間性等」は前述の2つを育成することで培われて行く力、および人間性なので「外国語活動」及び「外国語科」では前者の2つの柱で構成されている。⁽⁴⁾

外国語を習得するうえで、機械的な練習で覚えるのではなく、意味のある言語活動を通して体験的に理解させることをねらいとしている。以下文部科学省が発行している「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」⁽⁴⁾から外国語活動及び外国語科の留意点を引用し記載する。

4-3-1 外国語活動

○知識及び技能の4つの項目

1) 言語を用いて主体的にコミュニケーションを図ること

の楽しさや大切さを知る

- 2) 英語の音声やリズムに慣れ親しむとともに日本語との違いを知り言葉の面白さや豊かさに気づくこと
- 3) 日本と外国との生活習慣の違いや行事などを知り、多様な考えがあることに気付くこと
- 4) 異文化交流を体験し文化に対する理解を深めること

○思考力、判断力、表現力の留意点

- 1) 自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を使って相手に配慮しながら伝え合うこと、ただ表現するだけでなく、相手が理解しやすい表現し、気持ちが伝わるような言い方が求められる。

4-3-2 外国語科

○知識及び技能の留意点

「音声、文字及び符号、後、連語及び慣用語、文及び文構造の育成を目指して言語活動を行うことで指導することになっている。これまでの外国語活動ではほとんど扱われてこなかった内容である。教員は、内容については専門的な知識が必要となる。」

○思考力、判断力、表現力の留意点

「話す内容については『身近で簡単な事柄』になっており、外国語活動の自分の中心の世界から自分以外のことについても表現できるようになることを求めている。読むことについては『推測しながら』というところから強調されている。」

以上の記載から、外国語科での言語指導は専門的な知識も必要となってくるが、思考力・判断力、表現力に関しては、3、4年生が自分ことを中心に表現することに対して5、6年生は学校、町、市、伝統文化などへ拡大されることがわかる。これは、社会科の学習内容の地域の情報や歴史などを取り入れて、相手意識目的意識をもって英語で表現することにつながると思われる。

クラスの中だけだと英語を使って伝える相手が、その内容を伝える前から情報として知っている場合が多く、目的意識や相手意識が低いまま行われがちである。この場合機械的な練習になる危険性もある。

金沢市の副読本のJumpのトピックスの金沢市の紹介を外国の交流相手に伝えるという形が相手意識や目的意識を強めることになる。

4-4 国際交流を絡めた英語教育の可能性

Sounds Good Jump (対象：小学校6年) は先に述べたように全部で8 Unitからなっており金沢に来た留学生に学校のことや市のことを紹介する形で話が進む。最後に国に帰った留学生に手紙を書くことなども想定されている。

筆者は、これまで金沢市内の小学校の総合的な学習の時間で国際協働学習のプロジェクトの支援を行ってきた。

2006年からは国際共同壁画制作アートマイルプロジェクト⁵⁾の支援を10年間、2017年からはJEARNのプロジェクトの1つである“Teddy Bear Project”⁶⁾の支援を行ってきた。

前者のアートマイルプロジェクトは、日本と外国の学校と共同で1枚の大きな絵を描くものである。絵のデザインをいっしょに考えていく上で必然的にTV会議等を使って英語で話し合うことが必要となってくる。その過程で英語での自己紹介カードや自己紹介ビデオなどを交換することによって、外国の友達とつながるには英語が必要であるということを理解することができる。何よりも、児童がTV会議を経験することで、英語をもっと使ってみようという思いが強くなることわかる。⁷⁾

後者のTeddy bear Projectは、自分たちの代表としてぬいぐるみを相手国に送り、相手からもぬいぐるみを受け取って、そのぬいぐるみの目を通して互いの文化を日記などの形で紹介しあうものである。もちろん自分たちの自己紹介や学校紹介、TV会議も必要に応じて行うことができる。

筆者がサポートしてきた国際交流では特に台湾と行うことが多く、台湾からは、交流相手の学校の教師や児童が日本の交流校を訪問することもよくあった。2016年度には、国際共同壁画制作アートマイルプロジェクトで、台湾の台北市立日新国民小および嘉義市立文雅国民小が、金沢市の西小学校、小坂小学校を訪問している。2017年度には、嘉義市立文雅国民小と嘉義市立坪港国民小が金沢市の西小学校、米泉小学校、中央小学校そして四十万小学校を訪問している。そこでは、台湾の子供たちが日本の学校の授業に参加したり、校内を案内してもらったりした。特に中央小学校は街中にある学校なので台湾の児童とともに街中に出かけて、観光案内を英語で実際に行った場合もある。

このような外国の児童との直接の交流では、習った英語の表現を外国の友達に使ってみることができ、金沢の伝統工芸や建物の紹介なども、副読本のJumpの内容と関連させて実際に行うことができた。英語の学習が即現実に役立つものとなっている。

しかし、外国の児童と実際に対面しての交流は特別な例ではある。しかし、どの学校でもできる方法としてネットを通しての国際協働学習がある。英語の必要性を感じられる国際協働学習は、まさに生きた学びとなる。

2018、2019年度の移行期においては、総合の時間が外国語科に15時間ほど使われることが想定されている。うまく国際協働学習等とリンクさせることで英語を使う必然性が生まれることになる。

前述した国際共同壁画制作アートマイルプロジェクトは、大型のプロジェクトで時間も2、30時間等多く取られてしまうが、このTeddy bear Projectであれば、ぬいぐるみを交換し、そのぬいぐるみの目を通した日本文化紹介

を英語でおこなう形をとるので総合の時間としても手軽に実施できる。

筆者は2017年度に、金沢市内の小学校のTeddy bear Projectの実践をサポートしている。とくに小学校6年生は金沢市内探検を小グループで行う学校が多く、そこで取材した内容を交流相手にビデオやPower pointのスライドで伝えるというところが多かった。

交流相手がいるということは、金沢の良さを相手に何とか伝えたいという思いにつながり、TV会議なども利用することで、英語を使って伝えたいという高い動機づけにつながる場合が多い。前述の表2、4の項目の◎のところは、コンテンツとして児童が調べ、それを英語で外国の友達に伝えるという場面設定を作りやすい所である。また○のところの趣味や将来の夢などは、TV会議やビデオクリップで自己紹介を行う時の表現として使うことができる。

5 まとめ

金沢の英語教育の副読本の“Jump”の内容は“WeCan!2”の内容とも非常に似通っており、金沢の英語教育の実践例が今後の移行期の実践事例として役立つことがわかった。英語で表現するためには、相手意識や目的意識が重要であり、そのことが主体的で対話的な学びに通じる。また、そこから内容的に深い学びにつなげることもできる。

2020年度の入学生から本大学においても小学校英語のための「小学校英語の基礎」や「小学校英語科教育法」の授業がスタートする。もちろん英語の発音や文の構造など基礎的な知識も必要であるが、それらを踏まえた上で、思考力、判断力、表現力のところにも焦点を当てたい。表現力を付けるには、まず前提となる動機づけが重要であると考ええる。自分たちの街や日本の伝統文化の情報を誰に発信するのか?何をどのように発信すればいいのかなどを考えた上で、適切な英語表現を知ることが重要である。

そのためには学生にも、国際交流を踏まえたTV会議などを体験させて、どのような英語表現が必要となるのか、相手にとってわかりやすい言い方や、相手の呼びかけに対してジェスチャーも含めた具体的な反応の方法などを考えさせたい。パターンプラクティスではなく、英語の必要性を感じさせたり、伝えるための工夫を考えさせたりする場面が必要だと考える。

このように、これから小学校教員を目指す学生には、大学の授業の中で国際交流の交流プログラムとリンクさせた形で英語教育の授業を行っていくことで、学生自身が英語で表現する楽しさを体験することができる。また、学校現場に立った時もTeddy bear Projectなどの国際交流プロジェクトへの参加方法を知っていれば同じ経験を児童に還元することができる。

注

- (1) 小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック 文部科学省 P15 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/123/houkoku/1382162.htm
- (2) 公立小学校における英語科導入に関する動向 松崎邦夫 北條礼子 上越英語研究, P55 (2002-07)
- (3) 日本と中国における小学校英語教育の現状と問題点 陸君 石丸千重及 京都文教大学紀要「人間学研究所」Vol.14 2013 p.3
- (4) 文部科学省サイト 2017年12月8日公開
- (5) <https://artmile.jimdo.com/> アートマイルプロジェクト
- (6) <http://www2.jearn.jp/fs/1191/index.htm> テディベアプロジェクト
- (7) 2015年度石川県国際協働学習実践事例集 金沢星稜大学グローバル教育研究所国際協働学習研究会 2016